

学 習 指 導 案 形 式 に つ い て

この学習指導案は、各教科等の特性により形式や内容に若干違いはありますが、基本的には以下のようになっています。御覧になる際には、下記のことを参考にしてください。

○ ○ 科 学 習 指 導 案

○年○組 ○○名 指導者 ○ ○ ○ ○

リード文…今回の授業で、検証したいことについて述べてあります。
複数述べる場合は、見出し記号として○を先頭に付け、箇条書きにする。

1 単 元 (題 材) ○○○○

2 目 標

※ 本単元（題材）で身に付けさせたいことを指導目標として述べてあります。

3 単元（題材）の評価規準

- ～に関心をもち、～意欲的に～することを通して、～しようとする。 【関心・意欲・態度】
- ～について考え、適切に判断し、～を表現している。 【思考・判断・表現】
- ～している。 【技能】
- ～が分かっている。～を理解している。 【知識・理解】

※ 単元（目標）を分析して、子どもの姿で述べてあります。

※ 評価規準の観点は4観点を基本としていますが、教科等によって異なります。

4 単元（題材）について

(1) 単元（題材）の価値

※ 単元（題材）設定の意義や教材観について述べてあります。

(2) 子どもの実態と指導

※ 本単元（題材）に関わる内容について子どもの実態を明らかにし、共感的な子ども理解という立場から、子どもをどのように捉えているかが述べてあります。また、単元（題材）の価値や実態を踏まえながら、学んだことを活用する手立ての工夫を中心に述べてあります。

5 指導計画（総時数○時間）

過程	主 な 学 習 活 動 【 評 価 規 準 】	時間
(分) 調 べ る	7 位ごとに計算することで、百の位に繰り上がる計算の仕方を、ブロック操作などを通して考える。 【関：百の位に繰り上がって、答えが3位数になる筆算の仕組みを考えることができる。】 意欲的に学習に取り組んだり、題材全体の見通しがもてるように ～ できるようにする。	1 (本時)

※ 「過程」の欄には、「次」や「小単元名」を書いている教科等もあります。

※ 「時間」の欄に本時の位置を（本時）と表しています。また、【 】には単位時間の評価の観点を示しています。

※ 吹き出しは、単元の価値や子どもの実態を踏まえながら、学んだことを活用するための教師の手立ての工夫を中心に述べています。

6 本 時（第○次の○／○）

(1) 目 標

※ 単元（題材）の目標や評価規準をもとに、指導目標を述べてあります。

(2) 評価規準

※ 指導計画の本時に位置付けてある評価規準を述べてあります。これが本時で重点的に評価し指導していく内容になります。

(3) 指導に当たって

※ 学習の流れに沿って、どのような指導を行っていくかを述べてあります。また、研究内容を具現化するための手立てが述べてあります。

(4) 本時の展開

[] 子どもの意識



教師の手立て

※評価

時 (分)	主 な 学 習 活 動 と 教 師 の 手 立 て ・ 評 価
4	計算の仕方を考える。 ・ブロックを使ったら、十の束が合わせて13になることが分かったぞ。 ・ぼくは、筆算で計算したよ。 ※（2位数）+（2位数）で、十が10こで百の位に繰り上がる計算の仕方を考えている。 （操作活動、ノート） ○ できている子には… ○ うまくできない子どもには… 前時までのたし算の計算で用いた方法を思い出し、解決の見通しがもてるように ～ できるようにする。 

※ 本時の導入には で、学習問題（めあて）を示してあります。

※ []には、子どもがもつと考えられる意識を表してあります。

※ には、教師の指導の手立てを述べてあります。特に、学んだことを活用するための手立てについて詳しく述べてあります。

※ 学習活動における評価は※で表しています。また、評価の見取り方としては（ノート）（ポストテスト）（発表）（作品）など具体的な方法で示しています。 には評価規準を見取った後の指導について述べてあります。

※ は、授業で使われる資料を表しています。

※ 本時の終末には で、学習のまとめを示しています。